

令和4年度 鳥取大学 学生 Small Core Project 中間報告  
健康増進の観点から地域交通のあり方を見直すプロジェクト

医学部医学科3年 井後雅博

これまでの活動内容について

**【活動1】AI デマンドバスが新たに導入される南部町での調査**

AI デマンドタクシーとは、デマンド交通（予約制交通期間）の予約の管理や最短ルートの決定をAIで行う新たな交通手段である。メリットは以下のようなものが挙げられる。旅客の利用が少ないバスの路線を廃止することができコストの削減につながる。行政がバス停を住民の家の近くに設定することができ、交通弱者や高齢者の助けとなれる。課題としては、事業の赤字が著しく、町とバス会社の費用負担が大きいことがある。運行開始後すぐに聞き取り調査を行ったが、利用登録者は30人ほどとのことで、今後の普及が期待される。

**【活動2】グリーンスローモビリティを導入した松江市の事例を調査**

グリーンスローモビリティ（以下「グリスロ」という）とは、時速20km未満で公道を走る4人乗り以上の電動のパブリックモビリティである。松江市でグリスロを運行している社会福祉法人「みずうみ」は公共交通が不便な団地において、ラストワンマイル移動を担う、商店が撤退した場所で出店を出店する、といったサービスを提供している。聞き取った利用者の声で、「免許返納後、体力が低下しバス停まで歩くのも難しい高齢者にとってなくてはならない存在」、「タクシーはワンメーターの移動のために呼ぶのは気が重い。規模の小さいグリスロは気兼ねなく利用できる。」といったものがあつた。

また、関係者からは以下のような意見が聞けた。「相乗りに抵抗がある方もいるなど課題がある中で、新規で利用される方の発掘を進めていく必要がある。」「車内がコミュニケーションの場となるなど、嬉しい効果もあつた。」「グリスロが地域の見守り役の側面も持つ。」

**【活動3】米子市内のタクシー事業者（皆生タクシー）での調査**

タクシーに側乗し、利用者にインタビュー調査を行った。その結果、「タクシー利用者は高齢者が中心」、「利用目的は医療機関の受診がメイン」、ということがわかつた。つまり、若者は別の手段で移動している（おそらく自家用車）。一方、マイカーを持たない高齢者には別の移動手段が必要である。また、タクシーは不要不急の用事では使われにくく、必要不可欠な用事の外出で利用される傾向にある。

#### 【活動4】米子市役所の総合政策部交通政策課での調査

米子市の担当者の方に公共交通に関する施策をインタビューしたところ、「市の現状では行政で新たな交通手段（AI デマンドタクシーなど）を導入するには、既存の交通事業者との利害調整が必要で、現実的ではない。」とのコメントであった。また、米子市としては中心市街地の駐車場不足や中心部の賑わい低下の方に課題を感じているとのことであった。今後の予定や方針として、市が委託しているだんだんバスは運行経路を見直しながら継続、自転車の活用を推進、ウォークアブルシティの実現などを検討しているとのことであった。

#### これまでの活動を踏まえた考察

米子市と南部町、松江市の法吉団地とで、住民構成や道路状況、民間事業者との関係性などに違いがあり、最適な公共交通のあり方はそれぞれ異なっていると感じた。平坦な土地が多く、バスやタクシー事業者が比較的充実している米子市では公共交通の見直しとともに、出かけたくなる街づくりをする必要性の大きさを感じた。

今後は、市街地の賑わいの創出を目指して、商店街などで学生主催イベントを行うことにより、地域住民の外出を促し、公共交通の利用促進につなげていきたいと考えている。これらの提案や活動内容を、米子市役所の担当者へフィードバックすることで本プロジェクトの成果としたいと考えている。



令和4年9月1日の日本海新聞で本プロジェクトの活動の一部が紹介された